

大学院看護学研究科看護学専攻	
学籍番号	DN1501
氏 名	宇都宮 明美
学位の種類	博士（看護学）
学位授与年月 日	令和3年3月15日
学位授与の要件	学位規程第4条第2項該当
論文題目	開心術を受ける患者の手術リスク予防アドヒアランス尺度の開発
主指導教員	春山 早苗 教授
副指導教員	半澤 節子 教授
	横山 由美 教授
論文審査委員	主査： 永井 優子 教授
	副査： 小原 泉 教授
	副査： 春山 早苗 教授

最終試験の結果の要旨

最終試験では、15分間で発表を終え、質疑にも真摯に応答された。

1. 研究テーマの目的の明確性および広域実践看護学分野の目的との適合

本研究の目的は、開心術の待機期間における心機能をよりよい状態に維持するために、手術リスク予防アドヒアランスを評価する指標とした尺度開発をすることであり、目的は明確である。本研究により、開心術を受ける患者に対する外来看護および術前から術後への継続した看護提供体制の強化への寄与が期待でき、広域実践看護学分野の目的と適合している。

2. 研究の独創性・革新性

開心術手術リスク予防アドヒアランスを、患者自身が開心術手術リスクを認識し、必要とされる予防方法を能動的かつ積極的に実行することと定義し、周手術期に特化したアドヒアランス概念を実践で活用できる尺度の開発は独創的で、革新性がある。

3. 実践的意義・社会的意義

本研究により開発された、開心術を受ける患者の手術リスク予防アドヒアランスの

状況を把握するツールは、外来看護師による患者の手術リスク予防行動を促進する援助の一助となり、ひいては外来看護の質向上につながり、実践的意義が認められる。

また、本ツールを用いた看護実践は患者の術後低心機能症候群の出現の予防および術後早期からのリハビリテーションの開始による入院期間の短縮、患者の満足度の向上や医療費削減も期待され社会的意義が認められる。論文審査の指摘に基づき、各意義とその根拠の記述がわかりやすく改善された。

4. 研究方法の妥当性

計画的行動理論(Ajzen,1991)と自身の先行研究(宇都宮,2021)に基づき、開心術を受ける患者の手術リスク予防アドヒアランスの概念枠組みを作成し、専門家会議を開催、4因子からなる尺度項目案(30項目)を作成した。尺度構成法(柳井,2014)により因子毎に尺度項目の縮約、その後、信頼性および妥当性の検討をしており、研究方法の妥当性はある。論文審査の指摘に基づき、尺度項目案作成のプロセス、分析方法(信頼性と妥当性の検討方法)等研究方法がより明確に示された。

5. 引用文献の適切性

引用文献は適切であった。

6. 論文の体系、論旨の一貫性

作成した尺度を用いて、15施設の開心術が決定した弁膜症患者220名(20~90歳代の男女)の有効回答を得た。これらの内的整合性(Cronbach α 係数)と確証的因子分析・併存妥当性により、4因子からなる尺度の信頼性と妥当性が確認され、尺度の臨床応用の可能性について示唆が得られた。論文審査の指摘に基づき、結果がより適切かつ明確に記述された。また、考察には確証的因子分析結果の解釈および結果に基づいた総合的な解釈と解釈の論拠を含めた信頼性・妥当性について明記された。さらに、臨床応用の対象別および広域実践看護学の視座を踏まえた本研究の意義に照らした考察が深められた。

論文審査の指摘に基づく論文の修正により、研究方法、結果、考察に至る論文全体の一貫性が認められた。

7. その他

確証的因子分析におけるモデルの適合度が低かったことから、開心術手術リスク予防に関わるアドヒアランスの構成要素のさらなる検討を含め、今後、本尺度の洗練および有用性の検討を期待する。

以上、学位論文の審査基準を満たしていると認められ、合格と判定した。